

が道を壊し橋を流し軍隊の行動を妨害する事も尠くはない。  
又濕氣が多いから火薬が濕り銃や砲や彈藥は錆び眼鏡は曇り電池はちぎりに  
放電する。

年中バナナやパイナップル等の果物はあるが厄介なマラリヤ蚊は到る所に  
敵意を持つて居る。ジャバ、シンガポールあたりでは開けて居るから自動車  
道が四通發達して居るが未開の土地も多く人も馬も通れぬ密林や濕地も尠く  
ない。

右の如く温度は高いが住み心地は決して悪くない、海に近く風があるから  
である、だからこそ多くの白人が移住したのである。

二、何故戦はねばならぬか、又

如何に戦ふべきか

1. 東洋平和の大御心を體して

何故戦はねばならぬか、又如何に戦ふべきか

五

0306

何故戦はねばならぬか、又如何に戦ふべきか

六

明治維新は廢藩置縣で日本を天皇陛下御親政の昔に還し浦賀や長崎に來た黒船があはよくば日本を併呑しようとした危い國難を切り抜けたのであつたが昭和維新は東洋平和の大御心を體し、亞細亞を白人の長略から救ひ亞細亞人の亞細亞に還し先づ亞細亞の平和を次いで世界の平和を確立せねばならぬ。

蔣介石を助けて日本と戦はせて來た黒幕は英、米である。彼等は日本の興隆を目の上の瘤として所有手段で日本の發展を妨害し重慶政權や佛印、蘭印等を啖かして日本に敵對させようとして居る。彼等の希望する所は亞細亞民族の相剋消耗であり、彼等の恐れる所は亞細亞民族が日本の力で獨立を圖ることである。世界人口の大半を占める亞細亞民族が團結して立つ事は數百年間亞細亞人の血を吸つて肥つて來た英、米、佛、蘭人共に取つては何よりの痛手である。

日本は東洋の先覺として滿洲をソ聯の野望より救ひ出し、支那を英米の搾取より解放し次いで泰國や安南人、比律賓人等の獨立を助け南洋土人や印度

0307

人の幸福をもたらしてやる大使命を與へられて居る。八紘一字の精神は即ち之である。

今度の戦争の目的とする所は世界の各民族をして各、其の所を得しめる事を理想とし給ふ。陛下の大御心を先づ東洋に於て實現する爲東洋の各國が軍事的に同盟し、經濟的には共存互恵の原則で有無相通じ、相互に他の政治的獨立を尊重しつゝ東亞の大同團結を圖り、其の綜合力に依つて東亞を白人の壓迫侵略から解放するに在るのである。

今次事變の意義が上述のやうに極めて大きいのであるから其の中心とし指導者として立つ日本の受ける國難は肇國以來のものである。南洋の諸民族は皆我々日本人を心から尊敬し又期待してゐるのであるから我々は此の尊敬と此の期待を裏切らないやうにする事が何より大切である。爲之特に注意しなければならぬ事は次の通りである。

## 2. 土人を可愛がれ、併し過大な期待はかけられぬ

何故戦はねばならぬか、又如何に戦ふべきか

七

61

0308

何故戦はねばならぬか、又如何に戦ふべきか

僅に三十萬足らずの白人に奴隷扱ひされて来た一億の土人は眼玉の色も肌の色も我々によく似てゐる。世界の寶庫である土地を故郷として神様から貰つて生れた筈の土人が何の因果で白人共に壓迫せられてゐるのかと考へると誰しも可愛くなつて來る事だらう。

地理的に見ても歴史的に見ても土人にとつては英、米、佛、蘭人等は強盜であり、我等は兄弟である。勘くも親類には違ひない。唯土人の中にも白人の手先になりスパイになつて同胞を賣り亞細亞を裏切るものも勘くない。特に高級官吏や軍人の中に多い事を考へて我に害を及ぼすものは止むなく除かなければならぬが、降参して來たら氣持よく許してやる雅量がなければならぬ。

併し裸で暮して働かなくても食べられる自然の恩に恵まれた土人は懶けものが多く、又三百年の久しい間西洋人から抑へられ、支那人から搾られて來て全く去勢された状態にあるから之をすぐ物にしようとしても餘り大きな期待はかけられぬ事を心しなければならぬ。

0309

### 3. 土人の風俗習慣を尊重せよ

土民の大部分は回教を信奉してゐる、佛教徒が佛様を拜み、耶穌教徒が主  
リストを拜むやうに、回教徒はメッカ（マホメットの生れた中央亞細亞の市  
都）の方を伏し拜むのが強い習慣である。又回教徒は絶対に豚を喰はな  
い。豚はけがれたものとして非常に厭ふ。頭に白い縁の無い帽子を被つてゐ  
るものはメッカに参詣した回教徒で土人の中では尊ばれてゐる人達であ  
る。町や村には禮拜堂があつてどんなに身分の高い人でも必ず靴を脱いで上  
る習慣があるから泥靴の儘入つては土人に非常な反感を惹起する原因にな  
る。宗教上の休日は日曜ではなくて金曜日である、又一日の中でも數回メッ  
カの方を拜む爲數十分仕事を休む習慣があり年の暮には一月の斷食の行をす  
る。（晝は食事を取らず夜少量を喰ふ）

室内に入つたら帽子を取るのが我々の禮儀であるが土人は帽子を被るのが  
禮儀である。又左手を不淨なものとして非常に嫌ふ癖がある。用便しても紙

何故戦はねばならぬか、又如何に戦ふべきか

九

0310

何故戦はねばならぬか、又如何に戦ふべきか

は使はない、左手で局部を拭ひ水で洗ふから、人に物をやつたり人の身體に  
觸れる時に左手を使ふ事は絶対にしてはならぬ。又土人は目前の小利を喜ぶ  
が將來の大利は判らない、物を買ふ時には直ちに支拂ひ無理な事をしないや  
うに注意しなければならぬ。

一般に土人は土人特有の風俗なり習慣なりを最上のものと思つてゐるので  
あるから、日本人の親切心で色々オセツカイしても有難がらないのみか反つ  
て反感を抱かせる事になる、親切の押賣せず土人の傳統と習慣とを尊重し無  
用の刺戟を起さない事が何より大切である。

#### 4. 仇なす仇は挫くとも罪なきものは慈しめ

英語が出来ないと上の學校へ入れない、一流のホテルや汽車、汽船では何  
でも英語を使つてゐる日本の現況は知らずくの中に西洋人がえらいやうに  
考へ支那人や南洋人を輕蔑するやうになつて來たのである。

之は天に向つて唾を吐くと同様である。我々日本人が東洋民族として支那

人、印度人と同様長い間劣等民族の扱ひを受けて来たことを記憶し、勤くも東洋では彼等の傲慢無禮な態度をたゞき直してやらねばならぬ。  
今度の戦争は民族と民族との戦争であることを考へ、獨、伊以外の西洋人に對しては少しも假借する事なく我が正當な要求を貫徹する事が必要である。唯掠奪したり婦人に戯れたり無抵抗なものを故意に殺傷したりする事は道義日本の名譽にかけて絶無ならしめる事を上下一體の強き戒めとし、陛下の軍人、陛下の軍隊たる矜持を傷けないやうにしなねばならぬ。特に老人や子供や女に對しては寛大に取扱つてやらねばならぬ。

### 5. 華僑とは何か

今から六百五十年程前日本に攻めて来て博多の沖で神風に遭つて殆んど全滅になつた蒙古の忽比烈は其の後今の瓜哇に遠征した事がある。三萬の軍隊を一千艘の舟に乗せて瓜哇の東北海岸に上陸し南洋の珍寶を取る爲に遠征したのであるが敵の詭計の爲大きな獲物もなく引上げた事がある。此の頃から

何故戦はねばならぬか、又如何に戦ふべきか

一一

〇二

0312

何故戦はねばならぬか、又如何に戦ふべきか

支那人が南洋に盛んに渡つて丁稚、小僧、苦力からだ、き上げて段々金持ちになり、懶けもの、土人をこまかし英、米、佛、蘭人等と結託して經濟上の力を増し今では南洋全部で五百萬近くまで殖へてゐる。重慶に軍資金を貸してゐるが大部分は重慶側の宣傳に迷はされ、或はテロに脅かされて止むを得ず貢いでゐる者が多い、これ等に對しては反省の機會を與へて我が方に離かせらるやうに指導しなければならぬ、唯注意しなければならぬのは彼等は西洋人の政治家と結んで上手な方法で土人を搾つてゐるから、土人の恨みは大部分華僑が引受けて西洋人は涼しい顔をしてゐる事と彼等の大部は民族意識も國家觀念もなく唯儲ける以外に道樂はない状態になつてゐる事である。従つて東洋民族としての觀念的な自覺を促したり利益の件はない事に彼等の協力を期待するのは難しい事と豫期しなければならぬ。

## 6. 強く、正しく、我慢せよ

從來の戦場の状態から見ても眞に戦に強い軍隊は掠奪したり女をからかつ

0313



たり酔つばらつて喧嘩したりはしない。彈丸の中で逃げ隠れるものに限つて大法螺を吹き弱いものをいぢめるものである。一人の不心得は全軍の名譽を傷ける事を考へて身を律しなければならぬ。掠奪や強姦した爲あたら歴戦の勇士が軍法會議に附せられ數年間の懲役に處せられるやうな結果になつては何とも申譯がない。萬歳の聲に送られて故郷を出發した日の感激を思ひ浮べ、朝夕、神詣でし陰膳を据えて武運を祈つてゐられる親兄弟に戰場で悪い事をして刑に處せられたといふ事ではどの面提げて凱旋が出来るか、彈丸に死んだ戦友に對し何として申譯が出来やう。激戦がすんで滞陣になつたり或は彈丸の飛ばない後方勤務に服するものは特に注意しなければ一生取返しのつかない失敗を招く事がある。

すべての武勳もあらゆる苦勞も酒色の失敗から消されて仕舞ふ様な事にならないやう戦さに強いもの程身を正しく律し又不自由な生活や苦しい仕事に對しては死んだ战友の心になつて我慢し自制しなければならぬ。

何故戦はねばならぬか、又如何に戦ふべきか

一三

0314

何故戦はねばならぬか、又如何に戦ふべきか

一四

## 7. 資源と施設とを愛惜確保せよ

日本が國家の存立に必要な石油は英、米の悪意で世界の何處からも買へなくなつた。南洋の石油を得る事は國家の生存上絶對的必要であるが敵は易々と我に渡す事はなからう。必ず各種の破壊手段を講ずる事は豫期しなければならぬ。飛行機で爆撃したりダイナマイトで爆破したりする事に對しては敵の破壊に先立ちて之を占領し嚴重に警戒擁護するは勿論石油以外の物資でも出来るだけ多く押へて之を現地で利用し又は内地に送る事が必要である。石油坑でも工場でも鐵道でも通信施設でも一度壊はすと元のやうに直すのは容易でない事を十分考へねばならぬ、又分捕つた自動車や兵器を取扱ひの知らぬ者がいちつて壊す事が多い。従來の戦争では敵のものは何でも破壊するか、又は焼けばよいやうに考へ或は兵力が足りないのを口實として燒棄した例が少くない。敵の資源を壊さずに取り之を最大限に利用する事を徹底的に考へると共に一發の彈丸、一片の麵麩、一滴のガソリンと雖も節用して國力

0315

の消耗を少くする事を終始念頭に置く事が今度の戦争では特に大切である。

8. 敵は支那軍より強いか

今度の敵を支那軍に比べると將校は西洋人で下士官兵は大部分土人であるから軍隊の上下の精神的團結は全く零だ、唯飛行機や戦車や自動車や大砲の数は支那軍より遙かに多いから注意しなければならぬが舊式のものが多いのみならず折角の武器を使ふものが弱兵だから役には立たぬ、従つて夜襲は彼等の一番恐れる所である。

9. 弾丸に死んでも病に死ぬな

地上には戦車があり空中には飛行機、海上には軍艦が活躍し、水中には潜水艦が横行するのは勿論であるが今度の戦争の特色として更に注意を要することは目に見えぬ各種の悪病やマラリヤ蚊の大敵が潜伏してゐることである。古來熱帯地方の戦闘では弾丸で死ぬより病氣で斃れるものが遙かに多い

何故戦はねばならぬか、又如何に戦ふべきか

一五

0316

何故戦はねばならぬか、又如何に戦ふべきか

一六

のは事實である。病氣の大半は口より入る事は日本でも熱帯でも同じであるが、南洋では其の上更に蚊と蛇とを用心しなければならぬ、彈丸に死ぬのは覺悟の上だが不攝生不注意の爲病氣や事故で死ぬ事は決して名譽ではない。尙附け加へる事は土人の女は殆ど全部花柳病を持つてをり又土人の女に戯れる事は土人全部を敵にする結果になる事は十分考へて置かねばならぬ。

### 三、戦争はどういふ経過を辿るか

#### 1. 遠洋航海から上陸戦闘へ

作戦地は何れも臺灣から千數百裡離れた南洋にある、汽船に乗つて一週間以上十日も近くかゝるところもある。此の遠い海上を數百艘の軍艦や船で渡るのであるが考へて見れば我等の祖先は既に三百年の昔御朱印船といふ木造の帆船で此の荒浪を征服して貿易し、或は八幡船と稱して武力を以て縦横に活躍したのである。連續數日の窮屈な船舶輸送が終つたら抵抗する敵を海岸

0317